



賀頌

黑 田 志
衣 饒 武
到 成 德
処 寿 善
禪 郷 光
耀

平成十三年七月

山田和雄



詩 二篇

不思議

風 吹けば
雲 おこり
片雲は 無心に遊び
悠々と 大空を去来する
こんな不思議に 出合うとは
雨 降れば
川 うるおい
流水は 自在にまかせて
方円の ありかに従いゆく
こんな不思議に 気付くとは
人はみな
永遠の いのち
億万年の 遺伝子をいただき
いまを 生かされ生きている
こんな不思議を 知ろうとは

小田原市 潮音寺 安藤康哉



祈
る

人は
信じ、愛し、癒しあう
何かがなければ
孤独の海を
あてもなく彷徨する
むなしい ただの小舟か
空漠とした 切ない想いに
うちしずむとき
人は
天空を見上げ
一途に輝く星たちの
聖なる光りのなかに
永遠のいのち 求め
ただ 祈る
あつき心
涙こぼれ
ひとり 祈る

